



【青島支店】

「中国の成長産業について」

1. はじめに

中国は「新常态（ニューノーマル）」といわれる安定成長期に突入しました。これまで経済成長を牽引してきた製造業の成長が鈍化し、その代わりにサービス産業や付加価値の高い技術が新たな原動力となっています。

中国には飲食店や百貨店・スーパーなどの小売企業が進出してきましたが、最近では娯楽関連や高齢者福祉関連など様々なサービス業が進出しています。

日本の高品質な商品はもちろんのこと、日本の習慣や文化的な要素を盛り込んだサービスが支持を集めています。

2. スーパー銭湯の進出について

日本一の店舗数を誇るスーパー銭湯「極楽湯」は、3年前に海外1号店を上海にオープンし、現在、武漢に3号店をオープン予定です。その人気ぶりから今後、中国北東部に100店舗、そのうち半数はフランチャイズで展開していく計画です。

館内に炭酸の湯や美肌の湯など、血行促進や美容効果が期待できる風呂を設置し、岩盤浴も7種類設置されています。他にも日本の化粧品や日用品、雑貨を購入できる売店やネイルサロンを置くなど、女性客を主要ターゲットにしたことによって、女性客に連れられた友人や家族が再訪するという効果も得られています。利用者も中国人が9割以上を占め、特に女性が全体の6割を超えています。清潔感のある空間やきれいな水質、快適な接客サービスにより、今では週末になると待ち時間が3時間になるほどの人気です。

3. 高齢福祉産業について

中国は現在60歳以上の高齢者が総人口の15%超を占めており、すでに高齢化社会に突入しています。このような中、ロングライフホールディングやセコムは、中国地場企業との合弁で老人介護施設運営という高齢者福祉分野に進出しています。

高齢者産業は中国事業の中でも重点産業であり、昨年、上海で「中国国際福祉機器展示会」出展と同時に開催した「日中(上海市)高齢者産業交流会」を皮切りに、江蘇省、浙江省において、展示会への出展及び関連ローカル企業との交流会が開催されています。

老人介護施設経営に対する日本企業の優れた運営管理ノウハウへの関心が高まっています。また、日本の介護関連用品や健康用品の種類は約 4 万アイテムほどあるのに対し、中国にはまだ 1 万アイテムしかないと言われており、介護関連用品への引き合いニーズも高まっています。

4. ベビー産業について

ここ数年、利用者が増加している海外通販では、粉ミルクやベビー服、おむつ、おもちゃなどのベビー用品が特に人気です。一人っ子政策解禁によって経済成長率は 0.5% 程度引き上げられ、毎年新たに 300 億元(約 5,100 億円)のベビー関連の消費が生まれ、ベビー商品市場は年平均 13% 伸びると予想されています。

人気のベビー用品ブランドは、HUGGIES、Pampers、Wyeth、花王など、ランキングトップ 5 が全て海外ブランドです。商品別に見ると、粉ミルクの人気ブランドトップ 5 のうち 3 つが米国ブランド、おむつの人気ブランドトップ 5 のうち 3 つが日本ブランド、と言われています。

海外通販の普及も手伝って、輸入商品に拘って購入する人が 4、5 級都市(人口が 50~100 万人以上の都市)にも増えてきています。なお、上海や北京などの 1 級都市ではベビー商品ユーザーの 7 割が女性ですが、これが都市ランクの低い 6 級都市では 8 割まで跳ね上がるほど、女性の利用が顕著に現れています。購入商品を比率で分類したデータでは、都市ランクが下がるにつれて粉ミルクやベビー服の購入比率が上がっており、逆に、都市ランクの高い 1 級都市では、家庭教育・育児図書の比率が最も高くなっています。上海では、「保険」を子どもにプレゼントする人もいます。

一人っ子政策解禁によってベビー商品市場がどれだけ拡大するかという、前述した数字も大事ですが、広大な中国では、都市による差異を把握し、それぞれの需要に適した対応が必要です。

5. ペット産業について

日本は空前の猫ブーム到来で、関連の経済効果は「ネコノミクス 2 兆円」などと言われています。日本の犬・猫の飼育数は合計で約 2 千万匹ですが、中国では、経済成長とともにペット飼育数が急増しており、諸説あるものの犬・猫の飼育数は合計で約 8 千万匹(犬が約 6 千万匹、猫が約 2 千万匹)と言われています。

以前は犬を飼うのは裕福な証と言われてきましたが、今では登録料も引下げられ、ペットとして身近な存在となっています。朝夕には犬の散歩をする人々が多く見られ、またペットは家族の一員という意識が高まり、ベビー用品同様、ペット関連商品についても、安全性や多様性が求められ、海外ブランド品・輸入品を求める人も少なくありません。ペット飼育に年間 1 万元(約 17 万円)以上使う家庭が 1 割以上あると言われています。

中国のペット産業市場は、ペットフード・ペット用品・動物医療・その他(生体販売、トリミング、ペット霊園、血統認定所等)を合わせた関連市場規模は 1.9 兆円と言われており、現在も年平均 30% の勢いで成長しています。

ペットフードでは現状、欧米ブランドが優勢ですが、日本ブランドならではの、細やかな配慮に溢れたペット用品等も、今後ますます需要が伸びるのではと期待されます。また、ペット人気に関連して日本人獣医師が在籍する動物病院もあり、猫カフェや、犬カフェも存在しています。

6. 新しい企業誘致について

山口県宇部市の友好都市である山東省の威海市には新しいコンセプトの開発区が設立されます。環境関連事業・省エネ事業を優先分野として、同地区で量産は行わず、高度な専門性のある技術の継続的な研究・開発を支援するものです。

進出企業は中国企業と合弁会社を設立、もしくは開発委託契約を結び、中国企業が研究・開発に必要な全ての資金を支援します。威海開発区が開発に必要なスタッフ・設備・施設を提供します。進出企業が希望する研究・開発事業の技術の提供を行い、開発計画を策定し、スケジュール管理及び中国企業に対する報告義務を負うこととなります。

中国企業は研究・開発の資金支援の対価として、中国国内における事業展開（製品の製造販売、知的所有権の使用契約）の権利を有します。進出企業は研究・開発の成果及び量産技術のノウハウを資金・人材・時間等の負担を負うことなく取得し、日本で商品化することで事業利益を得る事が可能となります。

なお、進出企業と中国企業相互の市場保護は個別契約によります。また、進出企業の中国国内への事業展開も個別契約によって可能となります。

威海市は山東省の北東部に位置します。日本との直行便は無く、上海や青島経由となります。なお、青島市からは約100kmで、新幹線で1時間半程度、車で3時間程度で行く事が出来ます。

7. 終わりに

昨年、上海ディズニーランドのある上海自由貿易試験区に、アマゾンが物流センターを建設し、越境ECの物流拠点としての機能を果たしています。中国では、依然として日本企業を始めとした外資企業に高い期待が寄せられています。

中国でのサービス業の展開において成功している企業は、日本の運営システムをそのまま持ってだけでなく、中国の習慣・文化に適した運営システムを築き上げています。

中国市場を目指す日系サービス業にとって、市場を分析し、消費者のニーズにあった事業計画を練ることが重要になってきます。加えて、個性化・多様化を重視した消費行動に変化しつつある中国人のニーズも、広大な中国に於いては地域差が大きいことも理解しておかなくてはなりません。また、既存のサービスを後追いで提供するだけでなく、潜在需要の掘り起こしをしながら、変化を上手く捉えてサービスに適応することで受け入れられ続ける環境を作る事が重要です。

また、日本企業が中国のサービス業で成功するために、現地に販路や資金力を持つパートナーとの合弁、現地経営を任せられる優秀な人材を登用することで、アウェーの中国市場で効率的に実績を築くケースが見られます。この点が成功の秘訣でもあり、トラブルが

発生しにくいポイントでもあります。

山口銀行青島支店では、多くの日系企業の進出後の事務的なお手続きをお手伝いしております。進出を検討されている方は、お気軽にお取引店にご相談下さい。是非、「皆様のお悩み」の解決のお手伝いをさせて下さい。

以 上